

旺文社英和中辞典「別冊」

日本語
の中の **外来語ノート**



OBUNSHA

旺文社版 主要英語参考書

英語基本単語熟語集

赤尾好夫編 「豆単」の愛称で1,100万の読者に愛用されてきたポケット判単語熟語集の決定版。コンピュータ分析により5,000語をピックアップし、大学入試の97%をカバーする。覚えるための単熟語集に徹底した。

スタート高校シリーズ 〈中学の復習から、高校学習へ橋渡しをする参考書〉

スタート高校英語……………東外大名譽教授 梶木隆一著

基礎シリーズ 〈基礎力の徹底養成に最適の参考書〉

教科書に即応した内容・構成で、らくに学べる基礎力養成本位の参考書。

英語の基礎〔新訂版〕……………東外大名譽教授 梶木隆一著

よくわかる 〈不得意科目の征服、基礎固めに絶好のシリーズ〉

シリーズ

ニガ手な人にも“よくわかる”の一点に徹して、くだけた解説にたとえやユーモアを織りまぜて指導した能率学習書。共通一次テストの準備書としても好適。

よくわかる 英文解釈……………小川芳男・赤尾好夫・J. B. ハリス共著

よくわかる 英作文……………小川芳男・赤尾好夫・J. B. ハリス共著

よくわかる 英文法……………小川芳男・赤尾好夫・J. B. ハリス共著

新研究シリーズ 〈教科書プラスアルファの実力をつける本格参考書〉

難関化した国公立大や私立大をめざす人向きの本格参考書。各科の学習に精通した著者がわかりやすく指導し、大学受験へ向けて確かな実力が養成できます。

新研究 英文解釈……………東京学芸大教授 羽鳥博愛著

新研究 英文法……………梶木隆一・宮川幸久共著

新研究 英作文……………横浜国立大教授 長谷川 潔著

*ご希望の方に「旺文社案内」,「図書目録」を送呈いたします。ハガキに住所・氏名・学年・年令及び希望するものを書いて下記宛へお送りください。

☎ 162 東京都新宿区横寺町 旺文社

はじめに

私たち日本人の生活にいったいどれほどの外来語が入りこんでいるのだろうか。あるビジネスマンの出勤前の情景を例にとってみよう。

住まいは大都会のベッドタウンの3DK。洗面してテレビのスイッチを入れる。朝食はパンにコーヒー、サラダ。トイレを済ませてパジャマを着換え、ワイシャツ、ネクタイ、ソックス、セビロと着こんでマイカーで出勤。ポケットの中身はハンカチ、ライター、キーホルダー……

朝のあわただしいひとときにすでにこれだけの外来語に接している。

テレビ、ラジオからはもっとさまざまな外来語が聞こえてくる。

古来、わが国は中国の漢字文化をはじめ、諸外国からさまざまな文化を取り入れてきたが、明治以降は特に英米を中心とする文化の流入が盛んになり、この傾向は今後も続くであろう。そして今後はこれまで以上に、諸外国に対して日本の文化・思想を伝え、広めていく必要が生じてくることは明らかである。

ここで問題になるのが、私たちの使っている外来語には、意外と彼ら外国人には通用しない言葉が多いという事実である。諸外国との交流のためにも、また、日本語の乱れを防ぐためにも、我々は外来語に対する正確な知識を身につけておく必要がある。

この小冊子はそのような観点に立って作成した。第1章および第5章では最近のマスメディアによく出てくる語を解説し、第2、3、4章では外国人に通用しない言葉について解説し、正しい言い方を示した。

なお、この小冊子の作成にあたっては堀内克明先生にご指導をいただいた。ここに記して、心より御礼を申し上げる。

1980年

旺文社

目次

1	知っている则便利な	マスメディアの外来語	1
2	本場と日本では	意味のちがう外来語	7
3	本場顔まけの	和製英語あれこれ	11
4	切ったり取ったりの	省略型の外来語	25
5	知っていて損はない	アルファベットの外来略語	29
		さくいん	30

シートノック	14	デノミネーション	8
ジェットコースター	14	*テレビ → テレビタレント	
ジェットラッグ	3	*テレビ食 → テレビタレント	
シビリアンコントロール	3	テレビタレント	17
シビルミニマム	14	*テレビドラマ	
シミュレーション	3	ドキュメンタリー	5
*シミュレーター		ドクターストップ	17
シャープペンシル	14	ドック	8
*シャツ → ランニングシャツ	23	トレードマネー	17
シュークリーム	14	トレーニングパンツ	17
シンポジウム	3	*トレーニングシャツ	
スパーカー	15	*トレーニングシューズ	
*スーパーマン		==== ナ 行 =====	
スタックフレーション	4	ナイター	17
スタンド	7	ヌードスタジオ	18
*スタンドプレー		ネームバリュー	18
→ メインスタンド	22	ネック	26
ストリップ	26	*ノーアイロン → ノーカット	
スナック	26	ノーカット	18
スプリングコート	15	*ノーゲーム	
スポット買い	4	*ノーダウン	
セーフティバント	15	ノータッチ	18
*ゼネスト → ハンスト	27	*ノンフィクション	
ソーラー	4	→ ドキュメンタリー	5
==== タ 行 =====		==== ハ 行 =====	
タイトルバック	15	*バースデーケーキ	
ダイニングキッチン	15	→ デコレーションケーキ	16
*ダイニングルーム		パート	26
ダブルパンチ	16	*ハーフコート	
*チアリーダー → バトンガール	19	→ スプリングコート	15
チキンライス	16	*パーラー → フルーツパーラー	20
*DK → ダイニングキッチン	15	*ハイカラ → ハイセンス	18
*TKO → ドクターストップ	17	バイキング	8
ティーチイン	4	ハイセンス	18
*ティーンエイジャー		ハイティーン	19
→ ハイティーン	19	*ハイファッション	
ディスコ	4	→ ハイセンス	18
テーブルスピーチ	16	*ハイミス → ミセス	10
テーマソング	16	パキュームカー	19
デコレーションケーキ	16	*バックスクリーン	
*デジアナ → デジタル		→ バックネット	
デジタル	4	バックネット	19
*デッドボール → フォアボール	20	バックミラー	19
デッドロック	8	バトンガール	19

バトンタッチ	20	マザーコンプレックス	22
*パネルディスカッション		マスコミ	27
→ シンポジウム	3	*マスメディア	
*ハムライス → チキンライス	16	マルチ商法	6
ハンスト	27	マンネリ	28
ハンドル	8	ミセス	10
*BG → OL	12	*ミニコミ → マスコミ	27
*ビーチウェア → ビーチパラソル		メインスタンド	22
ビーチパラソル	20	メジャー	6
ビジネスマン	9	*モーニング → イブニング	25
ビデオ	27	モーニングサービス	22
フィーバー	5	モルモット	10
*VTR → ビデオ	27	モンタージュ	6
ブービー	9	==== ラ 行 =====	
フェミニスト	9	ラインダンス	23
フォアボール	20	ラジコン	28
ブティック	5	ランニングシャツ	23
プラモデル	27	ランニングホーム	23
フルーツパーラー	20	リハビリテーション	6
プレーガイド	20	リビングキッチン	23
プレタポルテ	5	*リモコン → ラジコン	28
フロント	27	ルームクーラー	23
フロントグラス	20	ルポ	28
*ベア → ベースアップ		*ルポライター	
ベースアップ	21	*ルポルターージュ	
ベッドタウン	21	→ ドキュメンタリー	5
ベビーカー	21	レイオフ	6
ヘルスセンター	21	レインシューズ	24
*ホームイン → ゴールイン	13	レジ	28
*ホームソング → ホームドラマ		レベルアップ	24
*ホームドクター → ホームドラマ		レンジ	10
ホームドラマ	21	*ローティーン → ハイティーン	19
ボーンヘッド	9	ロケ	28
ポスト	9	*ロケハン	
ボックス	10	ロマンスカー	24
ボランティア	5	ロマンスグレー	24
ポリバケツ	27	*ロマンスシート	
==== マ 行 =====		→ ロマンسカー	24
マイカー族	21	==== ワ 行 =====	
マイクロコンピューター	5	ワーカホリック	6
*マイコン		*ワイシャツ → ランニングシャツ	23
*マイペース → マイカー族	21	*ワンマン → ワンマンカー	
*マイホーム主義 → マイカー族	21	ワンマンカー	24
マカロニウエスタン	22	*ワンマンショー	



知っていると便利な

1 マスメディアの外来語

新聞・TVなどでよくお目にかかるが、辞典などに出ている訳語ではちょっとピンと来ないというような語を最近の用法にしばって解説。

アセスメント (assessment [əsésmənt])

「(財産・収入の)査定, 評価」などの訳語があるが, 最近マスメディアでいう「環境アセスメント」とは「環境影響調査」のこと。すなわち, 海岸の埋立てや工場の建設, 都市計画などの開発事業が周辺の大気・水・生物などの自然環境にどのような影響を及ぼすかを事前に調査し, 悪影響を防止する策を検討することをいう。「アセス」と略すが英語の assess [əsés] は動詞である。

アニメーション (animation [æniméiʃ(ə)n])

「動画」。略して「アニメ」。animate [æniméit] (活気づける, 生気を与える) の名詞形で animated cartoon [ka:rtú:n] ともいう。Walt Disney の『ミッキーマウス』や『白雪姫と7人の小人たち』は世界的に有名。わが国でも『宇宙戦艦ヤマト』や『銀河鉄道999』が話題になった。

アパルトヘイト (apartheid [əpá:rt(h)èit])

「(特に南アフリカ共和国の黒人に対する) 民族隔離政策, 人種差別政策」。本来はオランダ語で, 英語の apart と -hood (…の状態) に相当する。近来, 国連ではこの差別政策をきびしく非難しており, また現地の有色人種も激しい反対闘争を展開している。

アムネスティ インターナショナル (Amnesty International [æmnisti intərnéiʃən(ə)])

「国際人権救援組織」。政治的, 宗教的理由によって不当に投獄されたり監禁されたりしている人々の解放を目的に組織展開された運動。1961年に結成され, ロンドンに本部を置く。わが国にも1970年に支部が設けられた。amnesty とは「恩赦, 特赦のこと」。

アンツーカー (un en-tout-cas [ātuka])

テニスコートや大きな競技場のトラックでは, しばしば表面に赤褐色の焼土を敷いて水はけをよくしてある。あれが「アンツーカー」で, もともとはフランス語で「あらゆる場合に (in all cases)」を意味し「晴雨兼用がさ」のこと。

インターフェロン (interferon [intərfi(:)rən])

「ウイルス増殖抑制物質」。ウイルスが体内に入ったとき、これに接触した細胞から出て他のウイルスの感染や増殖を抑制する物質がある。これが「インターフェロン」で、ウイルス性のガンや肝炎の予防・治療薬として期待されており、大量生産が試みられている。

1954年日本で発見され「IF (inhibitory factor), ウイルス抑制因子」と名づけられたが、その後英国人が *interfere* をもとに名付けたという *interferon* が通用している。

ウーマンリブ (woman [wúmən] + lib [lib])

「女性による女性解放運動」。英語では *woman* の複数形を用い *women's lib* または *Women's Lib* と書く。lib は *liberation* [libəreɪʃ(ə)n] (解放) の短縮語。このウーマンリブに関連して「ウーマンパワー」がある。*woman power* [páuə] は女性解放, 女性の人権確立運動に結集される女性の力をさす。

オートクチュール (♫ *haute couture* [o:t kuty:r])

フランス語で *haute* は「高級な」, *couture* は「裁縫」, 合わせて「高級服飾(店)」。専属のデザイナーがいて、パリの高級服飾店協会に所属する店をいう。世界のファッション界をリードしている。⇒「プレタポルテ」(p. 5)

オプション (option [ápʃ(ə)n])

いわゆる「ロッキード (Lockheed Aircraft Corporation) 事件」で登場した言葉で「条件つき発注内示」。しかし *option* 本来の意味は「選択の自由, 選択権」で、「オプション ツアー (optional tour)」といえ、団体旅行の途中で希望者が任意に参加することのできる小旅行をいう。

オペック (OPEC [óupek]) (=Organization of Petroleum Exporting Countries)

「石油輸出国機構」。1960年、イラク、イラン、クウェート、サウジアラビア、ベネズエラの産油5か国で結成。のち8か国が加わり現在13か国が加盟している。産油国間の石油政策の協調と、そのための情報交換などを行っており、エネルギー問題が世界的課題となっている折から、その動向が注目されている。

オンブズマン (ombudsman [ámblɔdzmən])

「行政監視委員」。1809年スウェーデンで憲法に基づき市民の権利擁護のために設けられた機関で、政府や公務員に対する一般市民の苦情を処理すること

を任務とする。英国やニュージーランドなどに広まり、最近のわが国でも行政を監視するためのオンブズマン制度の導入が行政管理庁を中心に検討されている。英国では *parliamentary commissioner* ともいう。

ケースワーカー (*caseworker* [kéiswà:rkær])

「社会福祉主事」。重度心身障害者や寝たきり老人などのように社会的・心理的・肉体的に不利な条件下におかれた人の個人または家族の生活史や環境を社会学的・心理学的に調査して、相談にのったり、助言・指導を行うことを「ケースワーク (*casework* [kéiswà:rk])」というが、この仕事を専門にする福祉事務所や児童相談所などの職員を「ケースワーカー」という。

ジェットラッグ (*jet lag* [dʒét læg])

「時差ボケ」のこと。ジェット機旅行による「ラッグ (遅れ)」ということで、体がジェット機の速さについて行くことができなくて適応が遅れることをいう。なお、*lag* は生産の遅れや文化の遅滞にも使われる。

シビリアンコントロール (*civilian control* [sivɪljən kəntróul])

civilian は「市民、文官」、*control* は「支配、統制」。日本国憲法にうたわれているように、わが国では国防についての最終決定権は文民が持っている。これは軍人の政治への介入を防ぐ基本的原理である。訳して「文民優越性」。

シミュレーション (*simulation* [simjuléif(ə)n])

本来は「見せかけること、ふりをする事」の意味だが、電子計算機や宇宙関係の用語としては「模擬実験」のこと。現実のシステムや現象のモデル問題を作り、それにいろいろな変化を与えて実験し、その結果を分析検討することをいう。なお航空機、宇宙船、原子炉などの複雑な実験操縦訓練装置のことを「シミュレーター (*simulator* [simjuléitær])」という。

シンポジウム (*symposium* [simpóuziəm])

古代ギリシャの「饗宴」がもとの意味だが、今はある特定のテーマ (*theme* [θi:m]) について専門的な理解を得るために、数名の専門家がそれぞれ異なった立場から独自の意見と見解を述べる集会をいう。略して「シンポ」。

これに似たものに、「パネルディスカッション (*panel discussion*)」があるが、これはある特定のテーマについて、賛成、反対その他各方面の代表者が座談会形式で討議をすすめ、聴衆は質問の形でこれに参加する討論会をいう。*panel* とは「審査員団、講師団」のこと。⇒「ティーチン」(p. 4)

スタグフレーション (stagflation [stægfléif(ə)n])

この語は「停滞、よどみ」を意味する stagnation の前半分と、「通貨膨張、インフレ」を意味する inflation の後ろ半分とをドッキングさせたもので「景気停滞下のインフレ」のこと。1969年ごろ英国で用いられはじめた。

スポット買い (spot [spat] + 買い)

単に「スポット」ともいい、「当座買い、当用買い」などと訳されている。オペック (p. 2) の原油価格問題に関連して最近のマスメディアをにぎわしている語の一つ。原油の長期購入契約によるルートとは別に、応急の目的で原油を買い付けること。多分に投機性を帯び、かつ原油価格の安定に影響が大きい。

ソーラー (solar [sólær])

「太陽の」という意味で、太陽エネルギーをさす流行語となっている。ソーラーハウス (solar house [haus]) は太陽熱で冷暖房をする家。ソーラーヒーター (solar heater [hítær]) は太陽熱を利用した暖房装置や温水器をさす。その装置全体はソーラーシステム (solar system [sístim])。ソーラーパワー (solar power [páuær]) は太陽熱動力、太陽エネルギー。ソーラーパネル (solar panel [pæn(ə)]) は太陽電池板。

ティーチイン (teach-in [tít:fin])

大学内で学生を中心に、教官たちも加えて行われる政治、社会問題等の集団討論会のこと。ストライキや抗議運動のときの「すわり込み」を sit-in [sítin] というが、teach-in はこれをもじった造語で、1965年ごろ米国のミシガン大学でベトナム問題について開かれたものが全米に広がり、のちにわが国にも入ってきた。⇒「シンポジウム」(p. 3)

ディスコ (disco [diskou])

レコードをかけてゴーゴー (go-go [gógòu] dance) などの踊りを楽しむ場所の「ディスコテーク (discotheque [diskètèk])」の前半分であるが、英語でもこのように短縮して使われる。

デジタル (digital [didzítl])

digital の本来の意味は「指の」ということだが、数字の桁(位)を digit [didz-it] ということから、digital に「数字表示の」という意味ができた。「デジタルウォッチ (digital watch [watʃ])」は「数字式時計」であるが、略して「デジタル」と呼ぶ。同時に文字盤も表示されている時計は「デジタル・アナログ

ウォッチ (digital-analogue [-ænləb:ɡ] watch)」であるが、商品名では「デジアナ」と呼ばれる。

ドキュメンタリー (documentary [dɒkjumənt(ə)ri])

想像や虚構でなく、実際に起こったことを記録することをいい、さしずめ文学なら「記録文学」、映画なら「記録映画」とでもいうところ。

これと多少ニュアンスは異なるが、虚構ではないという意味で「ノンフィクション (nonfiction [nɒnfɪkʃ(ə)n])」、「報告」を中心にした「ルポルタージュ (reportage [ˈrəpɔ:tɑ:ʒ])」がある。⇒「ルポ」(p.28)

フィーバー (fever [fi:və])

普通は「熱、熱病」の意味だが、ジョン・トラボルタ主演のアメリカ映画“Saturday Night Fever”から「ディスコ(disco [diskou]) (p.4)」に熱中することをさし、さらに一般に何かに対する「熱狂」や「熱中」をさす流行語となった。日本の若者も「フィーバーする」といい、さらに「フィーバー」という動詞にさえなっている。

ブティック (ˆ boutique [butik])

もともとは「店、商店」のこと。しゃれたアクセサリや小物、プレタポルテ(次項参照)を扱う、个性的でハイセンス(p.18)な小さな店。今では東京の赤坂、六本木あたりの風物詩ともなっている。

プレタポルテ (ˆ prêt-à-porter [pretapɔ:te])

もとは「すぐに着られる」という意味。有名デザイナーのデザインによる高級既製服のこと。「オートクチュール(p.2)」で発表された高級品を「すぐに着られる」ように、次のシーズンに既製服として売り出すわけである。

ボランティア (volunteer [vɒləntiə])

「(自由意志による) 志願者、義勇兵」を意味するが、ふつうマスメディアの中では「篤志家、奉仕者」をさす。すなわち、自発的に、かつ無報酬で、老人や身体障害者、孤児、ひいては国際的な難民などの救援にあたる人をいう。

マイクロコンピューター (microcomputer [màikroukəmpjútə])

集積回路を利用した超小型の電子計算機。テレビゲームや家庭電化製品の自動制御装置などに盛んに利用されている。略して「マイコン」だが、これは my computer の意味も持つ。こちらは英語では personal computer という。

マルチ商法 (multi- [mʌlti] + 商法)

米国の multi-level marketing plan (多層販売法) の略で、頭の multi- (many を表す連結辞) に日本語の「商法」をつけたもの。販売員が子、孫とネズミ講式に下部の販売員をふやせば、それに応じて手取り金が連鎖反動的にふえる仕組みの販売組織。わが国ではそのカラクリの悪用を防止するため、「訪問販売等に関する法律」できびしく規制している。

メジャー (major [meɪdʒər])

「国際石油資本」。major だけでは「大手の」という意味だから、英語では major oil companies とする。エクソン、モービル、ガルフ、テキサコ、スタンダード・カリフォルニア、ブリティッシュ・ペトロリアム、ロイヤル・ダッチ・シェルの英米系の大手7社をさすが、フランス石油を加えて8大メジャーということもある。中東産出の原油の採掘から輸送、精製、販売にいたるまでのほとんどを掌握してきたが、今後オベック (p. 2) にどう対応していくかが世界的エネルギー問題とあいまって、注目されている。

モンタージュ (montage [mɔ̃ta:ʒ])

「組立て、結合」の意味。映画では多くの場面を組み合わせで一つの画景を作ることをいうが、マスメディアの中で「モンタージュ」というと、目撃者などの断片的な記憶や印象を寄せ集め、それを組み立てて犯人の似顔絵や写真を作ること。英語の mount と同じ語源で「上にのせる」ことからきている。

リハビリテーション (rehabilitation [ri:(h)əbilitéiʃ(ə)n])

「社会復帰療法」。病人や身体障害者などの社会復帰のための医療的処置や職業上の更生指導の過程をいう。わが国では略して「リハビリ」ともいう。

レイオフ (layoff [leɪə:f])

「一時的解雇」。景気の悪いときや操業短縮時に、将来優先的に再雇用することを条件に解雇すること。わが国では「一時帰休」といって、休職として扱い、その間休業手当を支給している。

ワーカホリック (workaholic [wə:rkəhɔ:lɪk])

「仕事」の work に「アルコール中毒患者 (alcoholic [ælkəhɔ:lɪk])」の -holic をドッキングさせた造語。仕事に没頭して他を顧みない人を揶揄したもので、「仕事中毒患者、働きすぎの人」などと訳す。日本人が「うさぎ小屋に住む workaholic」といわれたことは記憶に新しい。

意味のちがう外来語

確かに辞典などにもそのつづりはのっているのだが……
近い意味があるだけにかえて混乱を招く困った語。

カンニング (cunning [kʌniŋ])

わが国では試験のときに先生の目を盗んでやる不正行為を「カンニング」といっているが、英語の cunning は「ずるい(こと)」の意味で、試験の際の不正行為の意味はない。日本でいう「カンニング」は、英語では cheating [tʃi:tiŋ] (in an examination) という。

クレーム (claim [kleim])

一般に苦情を申し立てることを「クレームをつける」というが、本来 claim は「要求、主張」の意味で、「苦情、不平」の意味はない。「苦情を申し立てる」は complain [kəmplein] を使うか make a complaint [kəmpleint] とする。商取引上の claim は賠償や保険金の「支払要求」の意味。

コーナー (corner [kɔ:rnər])

デパートなどによく「〇〇コーナー」などといって特別売場が設けられる。しかしそのコーナーは必ずしも売場の「すみ」や「かど」にあるわけではない。このような売場は英語では、何々 counter [kauntər] という。また、修理などを扱う場所は、何々 bar [bɑ:r] という。

サイン (sign [sain])

わが国では「署名」のことを「サイン」といっているが、sign には動詞の「署名する」という意味はあっても、名詞の「署名」の意味はない。名詞の「署名」は signature [sɪgnitʃər] である。

また、この signature にしても sign にしても、これはわが国でいういわゆる「署名捺印(する)」の「署名」であり、外国から来た有名人などにいきなり“Sign please.” などと言うと相手はギョッとしかねない。こんなときには autograph [ɔ:təgræf] を使って、“I'd like to have your autograph.” と言うとよい。

スタンド (stand [stænd])

確かに電気スタンドは「立っ」ている。しかし stand 自体に照明用の「電

気スタンド」の意味はない。英語では desk lamp といい、床の上に立っているものを floor lamp という。「スタンド」は standard lamp (高さの調節できるランプ) に由来するとも考えられる。⇒「メインスタンド」(p. 22)

デッドロック (deadlock [dɛdlɔk])

辞書を見ると「(交渉などの) 行き詰まり」, come to a deadlock で「行き詰まる」。この deadlock を dead rock (「死の岩」→「暗礁」) と思ってか「デッドロックに乗り上げる」という人があるが、この「ロック」は「錠前」の lock で、「岩」の rock ではない。

デノミネーション (denomination [dinɔminɛiʃ(ə)n])

わが国では「通貨呼称単位の変更【切下げ】」の意味で使い、たとえば100円を1円と呼びかえるように単位を切り下げの場合をさす。略して「デノミ」ともいう。しかし英語の denomination そのものには「額面金額, 名称, 呼称」の意味はあっても「呼称の変更, 切下げ」の意味はない。「変更」までいいたければ redenomination [ri:dinɔminɛiʃ(ə)n] といつか redesignation [ri:deziɡneiʃ(ə)n] [or changing] of denominations という。

ドック (dock [dɔk])

船がドック入りするように、人間が健康管理のために精密検査を受けることを「(人間)ドック」に入るといいますが、これは日本式表現。英語ではこのような検査を口語では medical checkup [mɛdikəl tʃɛkʌp] といい、正式には comprehensive medical examination という。

バイキング (Viking [vɔikiŋ])

Viking とは北歐に原住したノルマン人の海賊の名。わが国では北歐風の料理をいく種類も用意し、客になん度でもお代わりさせる方式をいう。これは1962年に帝国ホテルが「バイキング」と称して食べ放題料理を始めたものが広まったもの。英語ではこの方式を buffet [bʌfɛi] と呼ぶ。なお、北歐式の前菜風料理の buffet は smorgasbord [smɔ:rgəsɔ:rd] という。

ハンドル (handle [hændl])

英語の handle は「取っ手, 柄(※)」のことで自転車や自動車の「ハンドル」の意味はない。動詞の handle (手で扱う) から来たと考えられないでもないが、自転車のそれは handlebars [hændlbɑ:z], 自動車のそれは steering wheel [stɛəriŋ (h)wi:l] という。

ビジネスマン (businessman [bízni:mæn])

日本語の「ビジネスマン」は、ふつうの「会社員、事務員」だが、英語の businessman は「実業家」で、ひら社員と経営者ほどの差がある。英語でも幹部に近い会社員はこの名で呼べるが、ふつうは office worker という。

同様に banker [bæŋkər] は「銀行家、銀行業者」で、一般の銀行員は bank clerk [klɜ:k] という。

ブービー (booby [bú:bi])

ゴルフやボウリングなどの競技で、ビリから2番目の人に「ブービー賞」(英語では booby prize [praiz]) を与えることがよくあるが、本来 booby は「ばか」の意味で、競技の「ビリ」をさす。それがわが国ではビリから2番目をさすようになったのは、手をあげばだれでも容易にビリになれるが、ビリから2番目となるとそうはいかない、ということで一段格上げされたものらしい。

以上のことから明らかなように「ビリ」をさしている「ブービーメーカー」は和製英語である。

フェミニスト (feminist [féminist])

わが国で「彼はフェミニストだ」というと、女性に優しい男ということになるが、英語の feminist は「男女同権論者、女権拡張論者」のことで、なんとなくいかめしい。日本でいう「フェミニスト」は、どちらかという英語の gallant [gəlént] (n.) に近いが、これは今日では古風でまれである。「女性をちやほやする男」を ladies' man または lady's man というのが近いが、He is polite and attentive to women. と説明すればはっきりする。

ボーンヘッド (bonehead [bóunhéd])

辞書をひくと「間抜け、とんま」とある。頭が骨だけでできているというわけで、野球などでは頭脳的にまずいプレーをし、へまをやることを bonehead play という。このように使うなら問題はない。ところが、かつてあるスポーツ評論家が、平凡な飛球を「凡フライ」、そしてこの bonehead を「凡ヘッド」と書いていたが、本来の意味は上記のとおり。

ポスト (post [poust])

「ポスト」というとだれでも街角の赤い「郵便ポスト」を頭に浮かべる。辞書にも「郵便箱」の訳語があるにはあるが、英語で単に post という「郵便、郵便物」の意味である。日本語の「郵便ポスト」は英国では letter box、または pillar box、米国では mailbox という。

ボックス (box [baks])

喫茶店などで背もたれの高いいすで囲った席は、box ともいうが、booth [bu:θ] もよく使われる。

特に、「電話ボックス」のことは、米国では telephone booth とよんでいて、box は使わない。英国では telephone box または phone box というし、call box ともいう。また telephone kiosk [ki:ask] も使われる。

見本市や売店などの仕切られた「小間」は stall [sto:] という。

ミセス (Mrs. [mísiz])

わが国ではよく「あの方はミセスですか」などと尋ねることがあるが、Mrs. は既婚婦人の姓・姓名（正式には夫の姓名）の前につける敬称である。Mrs. 自体を「既婚女性、夫人」の意味に用いて “Is she a Mrs.?” と言うのは臨時用法で、きわめてぞんざいな使い方である。ふつうは “Is she married?” と言うことになる。「既婚女性」は married woman.

なお、結婚適齢期を過ぎて未婚である女性を「オールドミス (old+miss)」とか「ハイミス (high+miss)」などというが、これは和製英語。英語にも old maid とか spinster [spínstər] という言葉があるにはあるが、他人の適齢期などという余計なことは気にしないで、単に unmarried woman, single woman などと知っているのが無難。

モルモット (guinea pig [gíni pig])

医学の実験に使うねずみに似た小動物を「モルモット」といっているが、英語の marmot [má:rmət] やフランス語の marmotte [marmot] はリスに近い別種の齧歯(げじ)類の動物で、実験用のモルモットではない。これはモルモットと区別して「マーモット」と呼んでいる。「モルモット」は guinea pig (ギニアのブタ) というが、これはアフリカのギニアに寄港する船で南アメリカから輸入されたため。

(電子)レンジ (電子+ range [reindʒ])

日本語に従って electronic range としたら、それこそ和製英語になってしまう。range すなわち「レンジ」とは、上に burner [bér:nər], 下に oven [áv(ə)n] のついた調理台のことで、短時間で食品を調理するいわゆる「電子レンジ」とは構造的にも機能的にも異なる。「電子レンジ」は正しくは microwave oven [máikrəwéiv əv(ə)n] という。

なお range と oven の発音に注意。「レンジ」「オープン」では英米人には通じにくい。

日本人の造語のうまさに英米人の方が舌を巻きそう。「えっ、これが和製英語？」そんな言葉が続々登場。

アイスクャンデー (ice [aɪs] + candy [kændi])

ice cream はまさしく英語だが、シロップ (syrup) などを棒状にこおらせた「アイスクャンデー」は和製英語。英国では (ice) lolly [lɒli] という。また米国には Popsicle [pɒpsɪkl] という名のアイスクャンデーがある。

アフターサービス (after [æftər] + service [sɜːrvɪs])

商店が品物を売ったあと、一定期間その商品の性能を保証し、故障の修理や手入りを無料でサービスすること。通例、英語では after-sale service, after sales servicing, または簡単に guarantee [gærənti:] という。

イージーオーダー (easy [iːzi] + order [ɔːrdər])

仮縫いの手数をはぶいた容易な (easy) 注文 (order) 仕立てとはうまい表現。英語では made to order economically とでも説明する。これに対して「注文製の」洋服を「オーダーメイド (order + made)」というが、これまた和製で、正しくは made-to-order あるいは custom-made [kʌstəmmeɪd] という。

イージーペイメント (easy [iːzi] + payment [peɪmənt])

月賦など容易な (easy) 支払い (payment) の方法をいう。英語では「分割払いの方法」を installment plan [ɪnstɔːlmənt plæn] といい「ピアノをイージーペイメントで買う」は buy a piano on the installment plan とする。英国では on easy terms を「分割払いで」の意味で用いる。

イメージアップ (image [ɪmɪdʒ] + up [ʌp])

外見や印象すなわちイメージを高めるのが「イメージアップ」で、その反対が「イメージダウン (image + down)」, イメージを変えるのが「イメージチェンジ (image + change)」略して「イメチェン」である。もちろんどれも和製英語で、イメージアップは improving the image, イメージダウンは impairing the image, イメージチェンジは altering the image が正しい英語。

ただし「イメージづくり」の image-making と image-building は正しい英語である。ついでながら image の発音に注意。

ウエストボール (waste [weɪst] + ball [bɔ:l])

野球用語で、投手 (pitcher) が打者 (batter) の出方をうかがうために投げ
る「捨て球(投)」のこと。この waste の意味は「浪費、むだ使い」。英語として
は wasted ball となるが、正式には pitchout [pítʃaʊt] という。

なお、からだの胴回りのことを「ウエスト」というが、こちらは waist と
つづり、発音はこれも [weɪst] である。

エンゲージリング (engage [enɡeɪdʒ] + ring [rɪŋ])

「婚約指輪」の和製英語。engage には「婚約する」という意味があるが、
これは動詞で、ring に結びつかない。英語では engagement [enɡeɪdʒmənt]
ring という。なお、結婚式のときに交わす「ウエディングリング」は wed-
ding [wédiŋ] ring でよらしい。

OL (オーエル)

OL は office [ɔ:fis]+lady [leɪdi] の略だというのが、辞書をひくと「Old Latin
(古ラテン)の略」とあるばかり。office lady 自体が和製英語である。以前は、
business girl, 略して BG といったが、これでは B-girl すなわちバー(bar)
のホステス (hostess) や「街頭の(つまり夜の)女」などと誤解されるおそれ
があるというわけで OL に改めたという。英語では office girl という。しか
しこれを略した OG は和製英語である。なお、専門的職業についての女性は「キ
ャリアガール (career [kəˈrɪər] girl)」、「キャリアウーマン (career woman)」
という。

ガードマン (guard [ɡɑ:rd] + man [mæn])

「警備」の guard に man をつけて「警備員」。英語では単に guard だ
けで「見張り番、番人」の意味がある。「夜警」は night watchman とよぶ。

なお guard と man の間に s が入った guardsman (pl. guardsmen) と
いう語があるが、これは「番兵、英国の近衛(兵)兵、米国の州兵」のこと。

ガソリンスタンド (gasoline [ɡæso(ʊ)lɪ:n] + stand [stænd])

街頭の「ガソリン給油所」。もちろん和製英語で、英語では gas station [ɡæs
steɪʃ(ə)n], filling [fɪlɪŋ] station, service [sɜ:vɪs] station などという。英国で
は petrol [pétr(ə)] station, または garage [ɡæra:ʒ] などともいう。

ゲームセット (game [ɡeɪm] + set [set])

もとはテニス用語で、「試合終了」のこと。テニスでは最初の得点を「フィ